

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月20日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22330137

研究課題名（和文）利益概念の変容が資産・負債の評価方法に与える影響に関する総合研究

研究課題名（英文）An Overall Research About a Changing Concept in Accounting Interest Affecting Evaluation of Assets and Liabilities

研究代表者

長吉 真一（NAGAYOSHI SHINICHI）

明治大学・会計専門職研究科・教授

研究者番号：10315046

研究成果の概要（和文）：

東証一部上場会社に対して IFRS が全面適用された場合の資産・負債の評価に関する考え方や評価態勢等についてアンケートを実施した。アンケートの結果は『企業会計』第63巻第7-9号に掲載した。そして、これとメンバーが個別に研究した関連論文5篇を小冊子に取りまとめた。この他、IFRSの全面適用に関連して、会計目的と利益概念の変容、会計制度、監査証拠、会計上の見積り、配当計算の変化、原価計算制度等について検討し、学会で報告したり論文を発表したりして、成果を公表した。

研究成果の概要（英文）：

We did some questionnaires to the listed companies on Tokyo Stock Exchange (TSE) 1st Section. About the answers of the questionnaires and some comments, we contributed to "ACCOUNTING" Vol. 63 No.7-9. And then, we either reported in the annual meetings of Japan Accounting Association and Japan Auditing Association, and edited some articles in the booklet.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
2011年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2012年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：財務会計, IFRS

1. 研究開始当初の背景

現在、企業が財務諸表を作成する際に準拠すべき会計基準は、IFRSが主流となっている。IFRSは、当初EU諸国で設定・活用されてきたものであるが、これに多数のいわゆる新興国が追随したことから国際的に主流となった。そして、最近、アメリカも導入を決めたことにより、今日では、世界各国においてIFRSが導入されつつある。こう

したことから、IFRSの導入に比較的消極的であったわが国においても、企業が国際的な資本市場において資金を調達したり、国際的な投資者に財務情報を開示するためには統一した会計基準に準拠して財務諸表を作成する必要があるため、2010年3月期から任意適用を始めることになった。

IFRSと他の会計基準との違いが最も明確に認識できるのは利益概念である。わが

国会計基準は、従来、利益概念として「当期純利益」を重視してきた。「当期純利益」は、実現主義に基づいて収益を測定し、取得原価主義に基づいて費用を測定し、これらの差額として利益を認識しようとする考え方である。これに対し、IFRSが主張する「包括利益」は、その特徴の一つとして、資産・負債の価値を将来のキャッシュ・イン・フローとキャッシュ・アウト・フローとの差額である将来キャッシュ・フローで測定したうえで、これも利益として「当期純利益」に加えようとする点があげられる。わが国においてもIFRSが全面適用されることになれば、重要な利益指標は、「当期純利益」から「包括利益」へと転換することになる。その結果、利益概念は、従来の「当期純利益」による客観性・確実性を重視する思考から、「包括利益」の主観性・予測性という不確実な属性を有するものへと変容していく。これによって会計情報の多様化がもたらされることになる。

2. 研究の目的

本研究は、現在変容しようとしている利益概念が、資産・負債の評価方法にどのような影響を及ぼすかに関する総合的な理論研究を行うことを目的とする。IFRSがわが国に全面適用されれば、利益概念は従来の「当期純利益」から「包括利益」へと転換する。「包括利益」への転換は、資産・負債に主観性・予測性という不確実性と、会計情報の多様化をもたらすため、またその評価方法の変更ももたらすため、わが国の会計理論と会計制度に多大な影響を及ぼすことになる。本研究は、こうした多大な影響を受けるわが国の財務会計、管理会計、監査、会社法、及び公会計を網羅して、資産・負債の評価方法に関する新しい理論モデルを構築しようとするものである。

3. 研究の方法

本研究は、3年間の研究期間を設定し、研究代表者を含む8名（平成23年度以降は9名）の研究者によって行う。平成22年度は、利益概念の変容とIFRS適用との理論的関連性の研究、わが国にIFRSが全面適用された場合の資産・負債の評価方法の研究、そして、それらの検証方法を追究する。23年度は、IFRS先進国について分析する。24年度は、IFRSの適用状況を検証する。また、追加的な検討を行って研究成果をまとめる。

4. 研究成果

本研究では、まず、研究期間の前半においては、IFRSの全面適用を意図するアメリカ(AICPA, IFAC)、カナダ(CICA)等の各見解を入手・分析した。そして、研究期間後半においては、IFRSの全面適用に関して、会計制度、配当に関する規制、監査の手法、監査証拠の多義性、監査意見形成、および原価計算制度について検討し、論文を執筆した。

またこの間、日本会計研究学会や日本監査研究学会、そして各種研究会において研究成果を発表し、また研究者が所属する機関の紀要や商業雑誌に論文を投稿した。

今後は、利益概念と経営者の恣意性との関連についてさらに研究していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計25件)

長吉眞一「会計上の見積りに対する監査」、『会計論叢』(明治大学会計専門職研究科)第8号、査読無、2013年、pp.1-12

伊藤龍峰「監査委員監査をめぐる諸問題—期末監査としての決算審査について—」、『商学論集』(西南学院大学学術研究所)第60巻第1・2合併号、査読無、2013年、校正中

森田佳宏「会計の国際化と会計制度」、『駒澤大学経済学論集』(駒澤大学経済学会)第44巻第4号、査読無、2013年、pp.39-51

岸牧人「監査職能の分離と企業内会計士への役割期待」、『企業会計』第65巻第4号、査読無、2013年、pp.91-96

井上善弘「IFRS概念フレームワークにおける有用な財務情報の質的特性について」、『香川大学経済論叢』第86巻第1号、査読無、2013年、pp.45-58

進美喜子「新会計基準導入にともなう配当計算の変化とその意味」、『九州情報大学研究論集』第15巻、査読無、2013年、pp.17-27

潮崎智美「IFRSsの歴史における利益観の変容—概念整理と論点整理—」、『経済・経営研究』No.15、査読無、2013年、pp.1-24

異島須賀子「IAS/IFRSの会計目的と利益概念の変容—新旧概念フレームワークに焦点をあてて—」、『久留米大学商学研究』(久留米大学商学会)第18巻第3・4合併号、査読無、2013年、pp.29-50

片岡洋人「原価計算制度の再検討と資産・負債アプローチ」、『会計論叢』(明治大学会計専門職研究科)第8号、査読無、2013年、pp.57-71

長吉眞一、伊藤龍峰、潮崎智美、異島須賀子「IFRSの適用に関するアンケート結果の概要(1)」、『企業会計』第63巻第7号、

査読無, 2012年, pp.96-108
伊藤龍峰, 森田佳宏, 岸牧人, 片岡洋人「IFRSの適用に関するアンケート結果の概要(2)」, 『企業会計』第63巻第8号, 査読無, 2012年, pp.89-96
長吉眞一, 井上善弘, 進美喜子, 異島須賀子「IFRSの適用に関するアンケート結果の概要(3)」, 『企業会計』第63巻第9号, 査読無, 2012年, pp.128-134
長吉眞一「監査証拠の三面性」, 『会計論叢』(明治大学会計専門職研究科)第7号, 査読無, 2012年, pp.1-13
伊藤龍峰「監査報告書改革の動向」, 『商学論集』(西南学院大学学術研究所)第59巻第1号, 査読無, 2012年, pp.29-49
伊藤龍峰「監査基準の意義と役割」, 『会計』第181巻第3号, 査読無, 2012年, pp.14-27
森田佳宏「わが国の監査制度における不正への対応」, 『現代監査』(日本監査研究学会)No.22, 査読無, 2012年, pp.34-45
岸牧人「IFAC/IAASBが提示する監査人報告の变革」, 『経営志林』(法政大学経営学会)第49巻第3号, 査読無, 2012年, pp.47-58
井上善弘「会計上の見積りを巡る不正な財務報告に対する監査のあり方」, 『現代監査』(日本監査研究学会)No.22, 査読無, 2012年, pp.14-23
異島須賀子「国際監査基準の動向と日本への影響—基準の正当性の検証を手がかりとして—」, 『現代監査』(日本監査研究学会)No.22, 査読無, 2012年, pp.66-74
異島須賀子「【研究ノート】IFRSの適用に関するアンケート調査の集計結果」, 『商学研究』(久留米大学)第17巻第3・4合併号, 査読無, 2012年, pp.141-160
長吉眞一「監査計画策定の効果と監査人の一般的な対応」, 『会計論叢』(明治大学会計専門職研究科)第6号, 査読無, 2011年, pp.1-11
岸牧人「監査証拠の多義性」, 『産業経理』第71巻第1号, 査読無, 2011年, pp.65-75
井上善弘「原則主義にもとづく会計基準の下での監査の役割期待」, 『現代監査』(日本監査研究学会)No.21, 査読無, 2011年, pp.75-83
進美喜子「資本維持思考の変容—払込資本と留保利益の区分の後退—」, 『九州情報大学研究論集』第13巻第1号, 査読無, 2011年, pp.73-81
異島須賀子「会計士監査の社会的役割—会計士監査のシグナリング機能の検証—」, 『経済学研究』(九州大学経済学会)第77巻第5・6合併号, 査読無, 2011年, pp.151-160

[学会発表] (計8件)
進美喜子「新会計基準導入にともなう配当計算の変化とその意味」, 日本会計研究学会第

91回九州部会, 2013年3月23日, 九州大学
伊藤龍峰「監査基準の意義と役割」, 日本会計研究学会第70回全国大会, 2011年9月18-19日, 久留米大学
森田佳宏「わが国の監査制度における不正への対応」, 日本監査研究学会第34回全国大会, 2011年9月12-13日, 明治大学
井上善弘「会計上の見積りを巡る不正な財務報告に対する監査のあり方」, 日本監査研究学会第34回全国大会, 2011年9月12-13日, 明治大学
潮崎智美「大学においてIFRSをいかに教えるか—連単分離のもとでのIFRS教育に関する考察—」, 2011年9月14日, 日本会計教育研究学会第3回全国大会, 熊本学園大学
異島須賀子「国際監査基準の動向と日本への影響」, 日本監査研究学会第34回西日本部会, 2011年7月23日, 神戸大学
Hirotō Kataoka “Building Micro-Macro Loops Using ABC Information and Organizational Contexts: the advantage of Japanese excellent companies”, The 34th Annual Congress of the European Accounting Association, Rome, 2011, 2011.4.21, LUISS Guido Carli University, ITALY
井上善弘「原則主義にもとづく会計基準の下での監査の役割期待」, 日本監査研究学会第33回西日本部会, 2010年7月3日, 同志社大学

[図書] (計2件)
小津稚加子・潮崎智美・進美喜子, 小津稚加子・梅原秀継編著『IFRS導入のコスト分析』, 担当:「第1章IFRS導入のコスト・ベネフィット研究(1)—アメリカ, EU, オーストラリアの状況」, pp.3-24, 2011年, 中央経済社
小津稚加子・潮崎智美・進美喜子, 小津稚加子・梅原秀継編著『IFRS導入のコスト分析』, 担当:「第2章IFRS導入のコスト・ベネフィット研究(2)—日本におけるIFRS導入前調査の分析」, pp.25-43, 2011年, 中央経済社

[産業財産権]
○出願状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長吉 眞一 (NAGAYOSHI SHINICHI)
明治大学専門職大学院会計専門職研
究科・教授
研究者番号：10315046

(2) 研究分担者

伊藤 龍峰 (ITO TATSUMINE)
西南学院大学商学部・教授
研究者番号：50184669
森田 佳宏 (MORITA YOSHIHIRO)
駒澤大学経済学部・教授
研究者番号：90248534
岸 牧人 (KISHI MAKITO)
法政大学イノベーション・マネジメン
ト研究科・教授
研究者番号：90264324
井上 善弘 (INOUE YOSHIHIRO)
香川大学経済学部・教授
研究者番号：60253259
進 美喜子 (SIN MIKIKO)
九州情報大学経営情報学部・教授
研究者番号：10412694
異島 須賀子 (IJIMA SUGAKO)
久留米大学商学部・教授
研究者番号：20336069
潮崎 智美 (SHIOSAKI TOMOMI)
広島市立大学国際学部・准教授
研究者番号：70336072
片岡 洋人 (KATAOKA HIROTO)
明治大学専門職大学院会計専門職研
究科・准教授
研究者番号：40381024

(3) 連携研究者

()

研究者番号：